

# ひとりで遊んでいる子どもはどのように遊びを変化させるのか？

## —自由遊び場面における非社会的遊びの変化プロセス—

広島大学大学院 日本学術振興会特別研究員 淡野 将太

### How do preschool children playing alone change over their play?

: Change process of nonsocial play in free play.

Hiroshima University

Research Fellow of the Japan Society for the Promotion of Science TANNO, Syota

### 要 約

本研究の目的は、子どもの非社会的遊びの変化プロセスを検討することであった。非社会的遊びから社会的相互作用に変化する際の働きかけに着目し、働きかけが非社会的遊びに従事している子どもから行われるのか、それとも他者から行われるのかを検討した。対象児は、幼稚園児 58 名（平均月齢 = 62.09,  $SD = 9.21$ ）であった。イベントサンプリング法による自然観察の結果、静的遊びについては、非社会的遊びに従事している子どもからの働きかけによって社会的相互作用が開始しやすいことが明らかになった。本研究から、静的遊びに従事している子どもは、自分の遊びに満足し、遊びを終えた時に他者との遊びを展開することが示唆された。

【キー・ワード】非社会的遊び, 幼児, 変化プロセス

### Abstract

The goal of the present study was to examine the change process of nonsocial play in children. Paying attention to the approach in the change from nonsocial play to social interaction, the author examined whether children engaging nonsocial play or other children approached to make social interaction. The participants were 58 preschool children (mean age = 62.09 months,  $SD = 9.21$  months). Results from observation of event sampling method revealed that social interaction was likely to occur from children engaging nonsocial play in the case of solitary passive play. This study suggests that children engaging solitary passive play develop the play with others when they are satisfied and finish their play.

【Key Words】nonsocial play, preschool children, change process

## 目 的

子どもは多様な遊びを展開する。教室の中では、折り紙、絵本、ままごと遊びやお絵描きをし、教室の外では、かけっこ、サッカー、かくれんぼや砂山作りをする。遊ぶグループの形態も多様である。特定の友人との遊びを長時間継続する子どもがいれば、遊び相手を次々と変える子どももいる。そして、ひとりで遊んでいる子どももいる。他者と相互作用を行わずにひとりで遊んでいる子どもは、親や保育者から、仲間から孤立しているのではないかと、仲間はずれにされているのではないかと心配されることがある。それは、近くで他の子どもが遊んでいるにも関わらずひとりで遊んでいたりと、誰もいない教室でただひとりで遊んでいたりとするためである。ひとりで遊んでいる子どもがどのような社会的適応状態にあるのか、というに問題に対して検討を行ってきたのが、非社会的遊び (nonsocial play) 研究である。

非社会的遊び研究は、非社会的遊びの形態を分類し、各形態の遊びに従事する割合 (i. e., 個人差) と社会的適応性との関連について検討を行ってきた (Asendorpf, 1990, 1991; Coplan, 2000; Coplan, Gavinski-Molina, Lagace-Seguin, & Whichmann, 2001; Coplan & Rubin, 1998; Coplan, Rubin, Fox, Calkins, & Stewart, 1994; 大内・桜井, 2005; Rubin, 1982; Rubin, Coplan, Fox, & Calkins, 1995; Rubin, Hymel, & Mills, 1989; Rubin & Mills, 1988; Rubin, Watson, & Jambor, 1978; Spinrad, Eisenberg, Harris, Hanish, Fabes, Kupanoff, Ringwald, & Holmes, 2004)。非社会的遊びの形態は、静的遊び (solitary passive play)、動的遊び (solitary active play) および沈黙遊び (reticent play) の3形態に分類される (非社会的遊びの分類と例は表1)。静的遊びは、物事について調べる探索的行動や積み木を組み立てたり絵を描いたりするなどの構成的行動に静かに取り組み、集団の中にも孤独を好み、他者の遊びに関心を向けることがないのが特徴である。社会的事象に対する興味の低さから生じる遊びである。静的遊びに従事する割合と行動問題 (e. g., 他の子どもと遊べない) との関連は確認されていない (e. g., Coplan, 2000)。動的遊びは、ボールやブランコを使った機能的行動や人形を動かすなどの劇的行動を行い、仲間から拒否された場合に生じやすいのが特徴である。自由遊びの中で観察される割合は非常に稀である。動的遊びに従事する割合は、仲間からの拒否や衝動性と正の関連にあることが報告されている (e. g., Coplan et al., 1994)。沈黙遊びは、他者の遊びに参加することなく見つめる傍観者の行動や目的もなくあたりをうろうろする行動を行うのが特徴である。沈黙遊びに従事する割合は、社会的コンピテンスと負の関連にあることが報告されている (e. g., Coplan et al., 2001)。

近年の非社会的遊び研究を概観すると、各非社会的遊びに従事する割合と社会的適応性の関連性に関する性差の検討 (e. g., Coplan et al., 2001) や、各非社会的遊びに従事する割合と情動性、制御および社会生活機能の関連の検討 (e. g., Spinrad et al., 2004) が行われている。当初は“ひとりで遊んでいる子どもがどのような社会的適応状態にあるのか”という教育臨床的な研究課題であったが、近年では“先行研究で得られた知見をより詳細に検討するとどのような結果が得られるか、また、先行研究が検討していない点を検討するとどのような結果が得られるか”という研究発展志向的な研究課題になる傾向にある。本研究では、研究の方向性を転換し、子どもが非社会的遊びをどのよ

うにして社会的相互作用へ変化させるのかを検討する。すなわち、ひとり遊びを行っている子どもにおける他者との遊びのきっかけを検討する。非社会的遊びから社会的相互作用に変化する際の働きかけに着目し、働きかけが非社会的遊びに従事している子どもから行われるのか、それとも他者から行われるのかを検討する。この研究を通して、非社会的遊びの変化プロセスに関する社会的行動特徴が明らかとなる。

表 1 非社会的遊びの分類と例

---

<b>静的遊び</b> 物事について調べる探索的行動や積み木を組み立てたり絵を描いたりするなどの構成的行動に静かに取り組む。集団の中においても孤独を好み、他者の遊びに関心を向けることがない。幼児期の自由遊びにおいて多く見られる。 <b>例</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・折り紙をする</li><li>・絵本を読む</li><li>・工作をする</li></ul>
<b>動的遊び</b> ボールやブランコを使った機能的行動や人形を動かすなどの劇的行動を行う。仲間から拒否された場合に生じやすい。自由遊びの中で観察される割合は非常に稀である。 <b>例</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・跳び箱をとぶ</li><li>・ボール遊びをする</li><li>・一輪車で遊ぶ</li></ul>
<b>沈黙遊び</b> 他者の遊びに参加することなく見つめる傍観者の行動や目的もなくあたりをうろうろする行動を行う。他者への接近と回避の葛藤を経験している場合に生じやすい。 <b>例</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・教室内をぶらぶら歩く</li><li>・他者の遊びを見つめる</li><li>・ぼーっとする</li></ul>

---

## 方 法

### 対象児

観察は広島県内にある幼稚園で行った。クラス構成は3歳児クラス20名、4歳児クラス36名および5歳児クラス35名であった。イベントサンプリング法による観察を行ったため、分析対象児(i.e., 非社会的遊びに従事し、観察対象となった子ども)は、3歳児クラス12名(観察開始時平均月齢 = 49.00,  $SD = 2.31$ , 月齢範囲 = 44-52), 4歳児クラス27名(観察開始時平均月齢 = 60.23,  $SD = 3.30$ , 月齢範囲 = 54-66) および5歳児クラス19名(観察開始時平均月齢 = 73.00,  $SD = 2.77$ , 月齢範囲 = 67-77) となり、全体で58名(観察開始時平均月齢 = 62.09,  $SD = 9.21$ , 月齢範囲 = 44-77) となった。各子どもが観察対象となった回数は、1回から最大で5回であった。

## 観察時期

観察は 2007 年 10 月から 2008 年 1 月に実施した。観察頻度は 1 週間に 1 回であった。

## 手続き

観察者の立場を取り、自由遊び場面の自然観察を行った。観察場所は、教室の内外を問わず、幼稚園の敷地内で行った。観察方法は、イベントサンプリング法を用いた。非社会的遊びが確認された時点で観察を開始し、他者との相互作用が継続した時点で観察を終了した。観察記録は、カメラ撮影および筆記によって記録した。非社会的遊びの形態を記録し、他者との相互作用のきっかけが、非社会的遊びに従事している子どもからの働きかけなのか、あるいは他者からの働きかけなのかを記録した。非社会的遊びに関する従来の研究では、10 秒を 1 インターバルとするタイムサンプリング法による観察を行い、1 インターバルにおける代表的な遊びを記録してきた。そのため、代表的な遊びが非社会的遊びに分類されるか否か、また、非社会的遊びに分類される場合についてはどの形態に当てはまるのかについて一致率を求める必要があった。一方、本研究はイベントサンプリング法を用いており、非社会的遊びが確認された時点から観察を開始した。そのため、遊びの分類に関する一致率は算出しなかった。

## 結 果

観察の結果、静的遊び 41 ケース、沈黙遊び 41 ケースおよび動的遊び 12 ケース、合計 94 ケースが得られた（図 1 は静的遊びの一場面）。非社会的遊びから社会的相互作用への働きかけのケース数を表 2 に示す。非社会的遊びから社会的相互作用への変化は、非社会的遊びに従事している子どもの働きかけによるケースが多いのか、それとも他者の働きかけによるケースが多いのかを検討するため、各非社会的遊びから社会的相互作用への働きかけのケース数について二項検定を行った。その結果、静的遊びについては、自分（i. e., 静的遊びに従事している子ども）からの働きかけが 32 ケースと他者からの働きかけが 9 ケースであり、自分からの働きかけが有意に多かった ( $p < .001$ )。



図 1 静的遊びの一場面

表2 非社会的遊びから社会的相互作用への働きかけのケース数

	自分からの働きかけ	他者からの働きかけ	合計
静的遊び	32	9	41
沈黙遊び	19	22	41
動的遊び	6	6	12
合計	57	37	94

沈黙遊びについては、自分 (i. e., 沈黙遊びに従事している子ども) からの働きかけが 19 ケースと他者からの働きかけが 22 ケースであり、有意差は確認されなかった (*ns*)。動的遊びについては、自分 (i. e., 動的遊びに従事している子ども) からの働きかけが 6 ケースと他者からの働きかけが 6 ケースであり、有意差は確認されなかった (*ns*)。

## 考 察

本研究では、非社会的遊びから社会的相互作用に変化する際の働きかけに着目し、働きかけが非社会的遊びに従事している子どもから行われるのか、それとも他者から行われるのかを検討することで、子どもが非社会的遊びをどのようにして社会的相互作用へ変化させるのかを検討した。その結果、静的遊びについては、非社会的遊びに従事している子どもからの働きかけが他者からの働きかけよりも有意に多く、非社会的遊びに従事している子どもからの働きかけによって社会的相互作用が開始しやすいことが明らかになった。

静的遊びは、集団の中にも孤独を好み、他者の遊びに関心を向けることがないのが特徴とされ、社会的事象に対する興味の低さから生じる遊びであることが指摘されている。本研究で観察された静的遊びのケースには、完成させた折り紙をクラスメイトに見せるケースや絵本を読み終えて他の遊び集団に仲間入りするケース、また、積み木遊びを終えてクラスメイトを新しい遊びに誘うケースなどが観察された。先行研究の指摘を踏まえて本研究結果を考察すると、静的遊びに従事している子どもは、自分の遊びに満足し、遊びを終えた時に他者との遊びを展開することが示唆される。

ひとりで遊んでいる子どもの社会的適応性は、ひとり遊びの形態によって異なり、ひとりで遊んでいるすべての子どもが社会的に不適応であるわけではない。非社会的遊び研究の今後の課題について展望すると、非社会的遊びの肯定的側面に注目した研究が望まれる。ひとりで折り紙をするなどの静的遊びを多く示す子どもは、ひとり遊びを自ら好んで行い、仲間はずれにされているという心配をするには足りない。先行研究が示してきたように、幼児期における静的遊びに従事する割合は、社会的不適応とは関連しない。静的遊びを多く示す子どもの社会的行動特徴に注目することで、非社会的遊びの肯定的多面性が明らかになるであろう。

また、社会的適応性の向上可能性に富む知見の提出に向けた研究も望まれる。他者の遊びを近くで見つめるなどの沈黙遊びを多く示す子どもは、他者への接近と回避の葛藤から傍観者の行動を行っている。親や保育者が仲間入りを促すような声かけを行ったり、仲間入り行動の向上を目的とした社会的スキル訓練を行うことで、傍観者の行動から社会的相互作用への展開を促進することができるかと考

えられる。介入研究によって、子どもの社会的適応性の向上に向けた示唆が得られるであろう。

## 引用文献

- Asendorpf, J. B. (1990). Development of inhibition during childhood: Evidence for situational specificity and a two-factor model. *Developmental Psychology*, **26**, 721-730.
- Asendorpf, J. B. (1990). Development of inhibited children's coping with unfamiliarity. *Child Development*, **62**, 1460-1474.
- Coplan, R. J. (2000). Assessing nonsocial play in early childhood: Conceptual and methodological approaches. In K. Gitlin-Weiner, A. Sandgrund & C. Schaefer (Eds.), *Play diagnosis and assessment*. New York: Wiley. pp. 563-598.
- Coplan, R. J., Gavinski-Molina, M., Lagace-Seguin, D. G., & Whichmann, C. (2001). When girls versus boys play alone: Nonsocial play and adjustment in kindergarten. *Developmental Psychology*, **37**, 464-474.
- Coplan, R. J., & Rubin, K. H. (1998). Exploring and assessing nonsocial play in the preschool: The development and validation of the preschool play behavior scale. *Social Development*, **7**, 72-91.
- Coplan, R. J., Rubin, K. H., Fox, N. A., Calkins, S. D., & Stewart, S. L. (1994). Being alone, playing alone, and acting alone: Distinguishing among reticence and passive and active solitude in young children. *Child Development*, **65**, 129-137.
- 大内晶子・桜井茂男 (2005). 就学前児における非社会的遊びと社会的適応との関連 筑波心理学研究, **30**, 51-61. (Ohuchi, A., & Sakurai, S.)
- Rubin, K. H. (1982). Nonsocial play in preschoolers: Necessary evil? *Child Development*, **53**, 651-657.
- Rubin, K. H., Coplan, R. J., Fox, N. A., & Calkins, S. D. (1995). Emotionality, emotion regulation, and preschoolers' social adaptation. *Development and Psychopathology*, **7**, 49-62.
- Rubin, K. H., Hymel, S., & Mills, R. S. L. (1989). Sociability and social withdrawal in childhood: Stability and outcomes. *Journal of Personality*, **57**, 237-255.
- Rubin, K. H., & Mills, R. S. L. (1988). The many faces of social isolation in childhood. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **6**, 916-924.
- Rubin, K. H., Watson, K. S., & Jambor, T. W. (1978). Free-play behaviors in preschool and kindergarten children. *Child Development*, **49**, 534-536.
- Spinrad, T. L., Eisenberg, N., Harris, E., Hanish, L., Fabes, R. A., Kupanoff, K., Ringwald, S., & Holmes, J. (2004). The relation of children's everyday nonsocial peer play behavior to their emotionality, regulation, and social functioning. *Developmental Psychology*, **40**, 67-80.

ひとりで遊んでいる子どもはどのように遊びを変化させるのか？

## 謝 辞

論文作成にあたりご指導・ご助言いただきました広島大学大学院教育学研究科の前田健一教授に感謝いたします。

